

新潟県に災害をもたらした主な気象事例

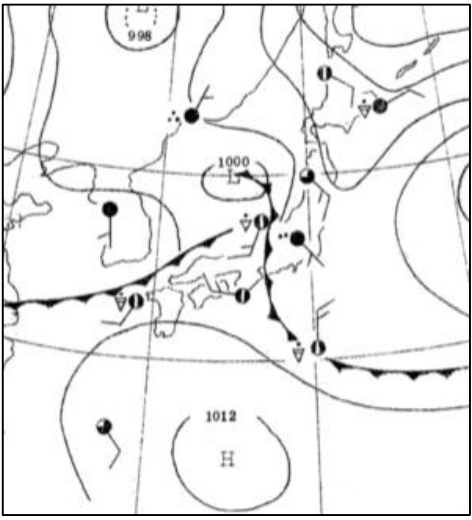
昭和36（1961）年8月5日の中越と佐渡での集中豪雨

台風から変わった低気圧からのびる前線による中越と佐渡での集中豪雨

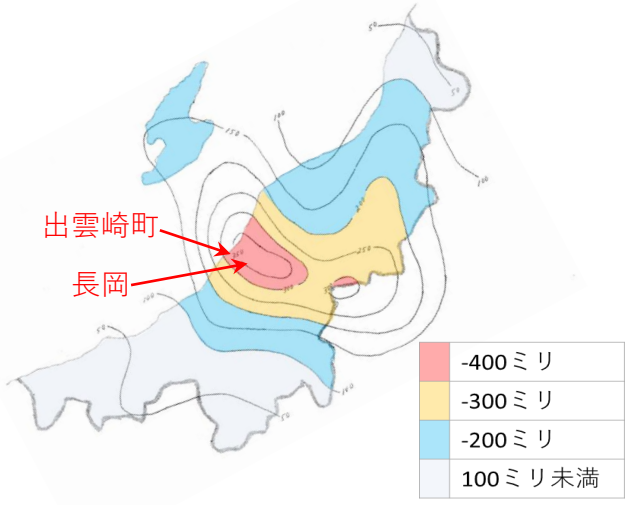
【概要】

昭和36（1961）年8月5日、台風第10号から変わった低気圧が日本海中部にあって、そこからのびる前線が佐渡をとおり東海道沖に達していた。前線付近では大気の状態が不安定となり、佐渡や中越では、雷を伴った激しい雨が断続的に降った。5日16時までの6時間降水量は長岡で162ミリ、三条市庭月で158ミリ、5日24時までの総降水量は、長岡で293ミリ、三条市庭月で279ミリ、魚沼市入広瀬で194ミリ、長岡市守門岳で193ミリ、佐渡市相川で152ミリなどとなり、いずれも、24時間以内に集中的に降った。

この大雨により、刈谷田川、五十嵐川が氾濫したほか、各地で家屋の浸水、橋梁の流失、道路の決壊、土砂災害などが相次いだ。出雲崎町では土砂崩れにより死者14名の被害が発生するなど、県全体の死者は26名となった。（被害状況は「異常気象報告」（東京管区気象台、1961）、県全体の死者数は「新潟県地域防災計画資料編」による）



地上天気図 昭和36年8月5日9時



昭和36年8月4日9時から5日24時までの総降水量（ミリ）

